

平成 27 年度  
男性看護師の困難感に関する研究結果概要

全国男性看護師会

無断使用禁止

## I. 調査概要

### 1. 協力依頼施設

全国の病院の内、単科の専門病院等を除き、複数の診療科（2診療科以上）を有する100症未満から1,000症以上の950病院

### 2. 研究協力承諾施設

422病院 承諾率44.4%

### 3. 調査期間 平成27年10月～平成28年3月

質問紙配布数 8,105部

### 4. 質問紙回収

回収数3,224部、回収率39.8%

有効回答3,216部、有効回答率99.8%

## II. 回答者の背景

### 1. 対象者の平均年齢

33.81歳±8.05（20～65歳）

### 2. 対象者の平均臨床経験年数

9.98±7.35年目（1～40年目）

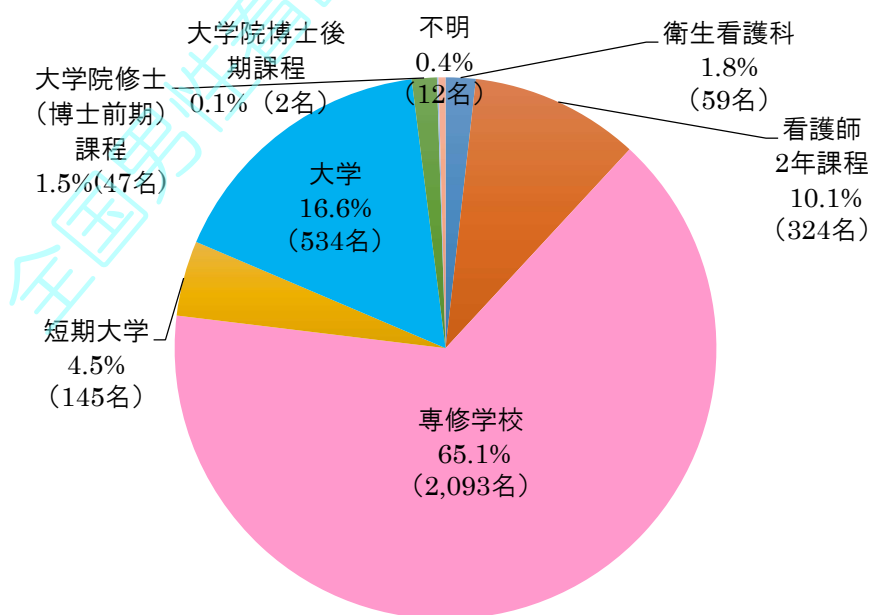


図1 看護職関連の最終学歴

### 3. 対象者の役職

役職を有する者、16.2% (521名)

役職の内訳：師長や看護長に相当する役職の者 3.5% (114名)

副看護師長や主任の役職に相当する者 11.7% (376名)

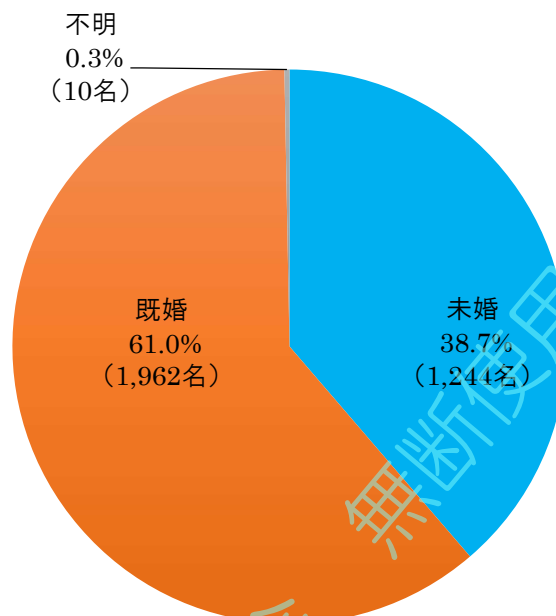


図2 既婚・未婚の状況

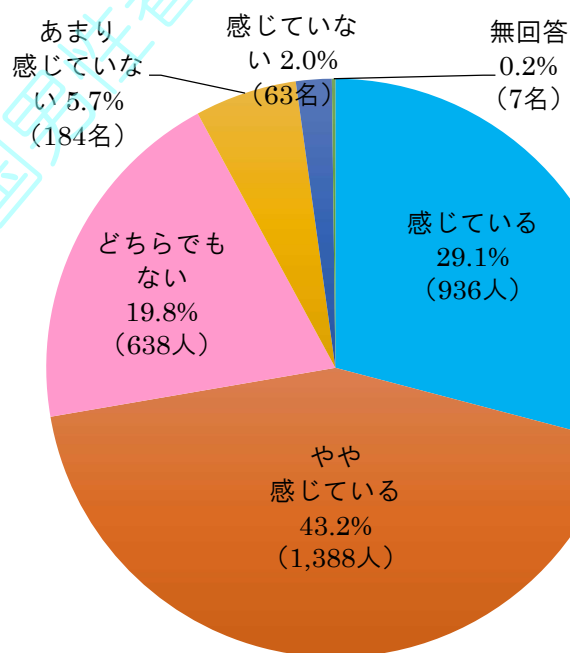


図3 看護師としてのやりがい

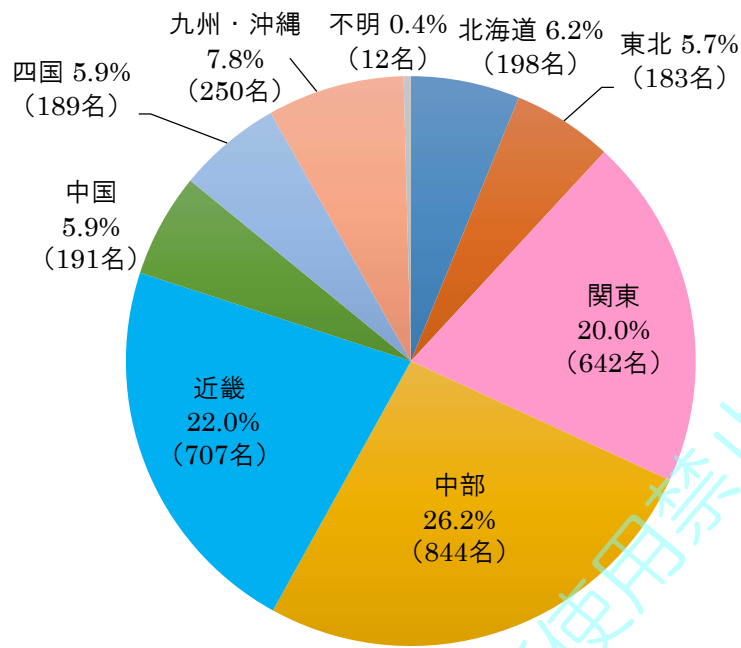


図4 所在地

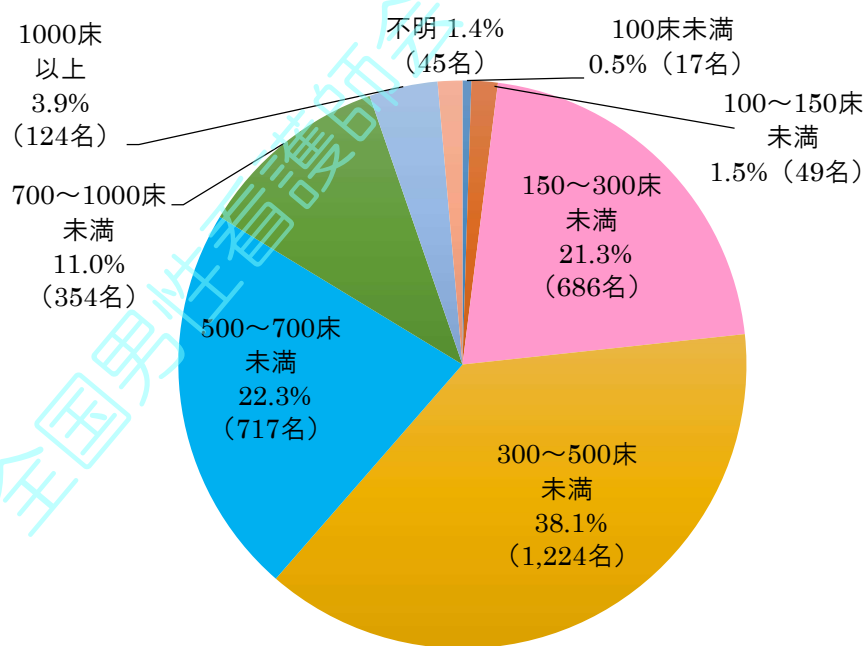


図5 所属施設の病床数

表 1 所属部署

所属部署 %	外科系病棟	内科系病棟	混合病棟	小児病棟
	11.8%	14.0%	14.2%	1.3%
	精神科病棟	整形外科病棟	腎泌尿器系病棟	救急外来
	6.5%	5.9%	0.7%	4.5%
	手術室	検査室	集中治療室	透析室
	13.2%	0.8%	14.7%	2.2%
	一般外来	医療安全に関わる部署		その他
	1.1%	0.7%		8.3%

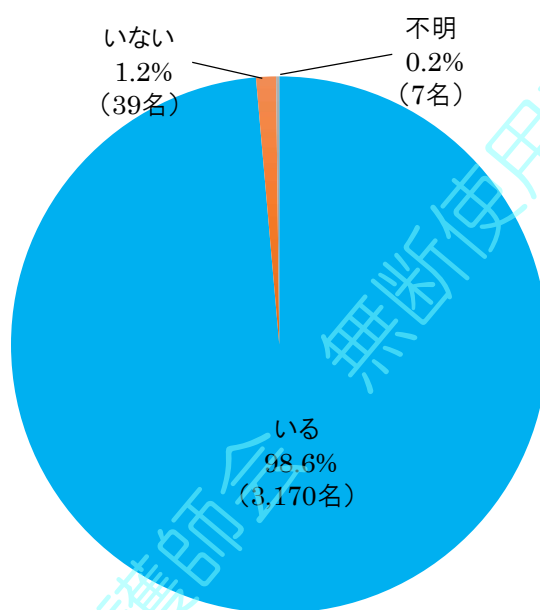


図6 院内にあなた以外の男性看護師の有無

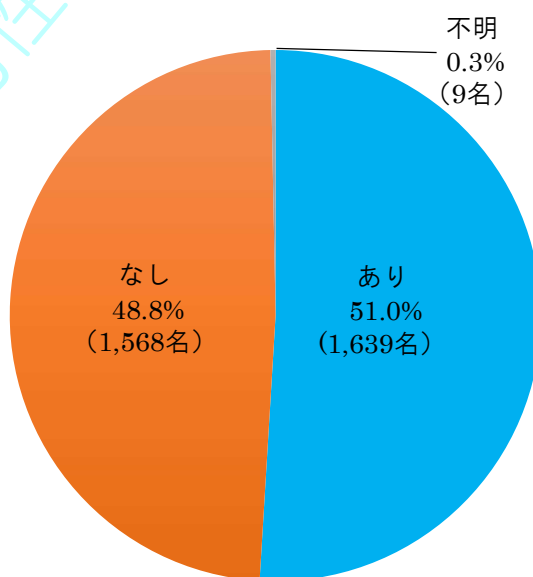


図7 院内の男性看護師の集まりや男性看護師会のような組織の有無

### Ⅲ. 男性看護師の困難感

選択肢の「そう感じる」：5点、「ややそう感じる」：4点、「どちらでもない」：3点、「あまりそう感じない」：2点、「そう感じない」または「経験したことがない」：1点とした、各質問項目の平均値を示す。

質問項目	平均値
01. 女性患者に羞恥心を伴うケアや処置を行う際、患者が不快な気持ちになるのではと、気がかりである	4.20
18. 看護師の給料体系で生計を立てていけるか不安を感じる	3.58
07. 訪室時、女性患者の更衣や授乳場面といった身体露出を伴う場面に遭遇した際、対応に困る	3.29
03. 体力的にこの先も看護師を続けていけるか不安を感じる	3.25
15. 男性看護師として今後どのような道に進めばよいか悩む	3.18
14. 女性看護師に、女性患者のケアや処置の交代を依頼することに申し訳なさを感じる	3.12
45. 女性看護師の気持ちを汲み取ることに難しさを感じる	2.97
04. 男性看護師との理由で、女性患者に羞恥心を伴うケアや処置を断られた際、対応に困る	2.94
29. 男性看護師が使用する休憩室や更衣室、トイレなどの立地や設備に不便を感じる	2.93
05. 女性看護師に、男性看護師の意見を理解してもらうことに難しさを感じる	2.87
42. 女性看護師の中で、中立的立場で働くことに苦労を感じる	2.85
46. 男性看護師は、おおざっぱで丁寧さがないとされると悔しく思う	2.84
27. 男性看護師特有の看護とは何かわからず悩む	2.83
37. 男性看護師との理由で、院内研修会や会議などで発表や司会を任せられることがあり困る	2.81
36. 女性看護師との仕事上の関係づくりに難しさを感じる	2.79
23. 女性患者の気持ちを汲み取ることに難しさを感じる	2.79

質問項目	平均値
24. 女性看護師に助言や指導をする際、難しさを感じる	2.77
34. 女性患者の悩みに共感することに難しさを感じる	2.76
13. 男性である自分がこの先も看護師を続けていけるか不安を感じる	2.73
28. 女性看護師に、男性看護師の気持ちを理解してもらうことに難しさを感じる	2.71
17. 女性看護師の意見を理解しにくいことがあり困る	2.70
08. 将来の進路について相談できる男性看護師がおらず困る	2.66
43. 女性患者に羞恥心を伴わないケアや処置を行う際、患者が不快な気持ちになるのではと、気がかりである	2.64
32. 男性看護師との理由で、リーダーシップを期待されることがあり困る	2.63
06. 男性看護師との理由で、女性患者に羞恥心を伴わないケアや処置を断られた際、無力感を感じる	2.63
41. 男性看護師は、パソコンや医療機器の扱いが得意という先入観でそれらを扱う仕事を任されることがあり困る	2.62
02. 身近にモデルとなる男性看護師がおらず困る	2.61
33. 女性看護師への助言や指導がセクシャルハラスメントやパワーハラスメントと誤解されないか不安を感じる	2.60
22. 身近に男性の管理者がおらず困る	2.54
44. キャリアアップに対する支援体制が不十分な状況で、大学院等に進学することに悩む	2.53
35. 男性看護師との理由で、言動が暴力的な患者の対応を任されることがあり困る	2.53
11. 患者や家族に看護師と認識されていないことがあり困る	2.48
19. 女性患者に羞恥心を伴うケアや処置を行う際、自分自身が恥ずかしさを抱くため、ためらいを感じる	2.47
21. 女性看護師に、男性看護師の考え方とは違うと言われた際、何が違うのか分からず悩む	2.44
31. 女性患者との関係づくりに難しさを感じる	2.43

質問項目	平均値
40. 女性看護師が多い会議やカンファレンスで発言を躊躇することで、積極性がないと同僚や上司から評価されることがあり困る	2.40
39. 男性看護師との理由で、女性患者に羞恥心を伴うケアや処置を断られた際、無力感を感じる	2.38
30. 業務について相談できる男性看護師がおらず困る	2.32
10. 仕事上でミスがあると、女性看護師よりも非難が大きいことがあり困る	2.32
20. 男性看護師との理由で、力を必要とするケアや処置を任されることがあり困る	2.32
16. 他の男性看護師の良くない評価によって、自分も同様であるとみなされることがあり困る	2.31
25. 男性看護師との理由で、ケアや処置以外の力仕事を任されることがあり困る	2.27
26. 女性看護師への助言や指導を躊躇することで、指導力がないと同僚や上司から評価されることがあり困る	2.25
12. 女性患者との会話の際、共通の話題が見当たらないことがあり困る	2.11
38. 女性看護師に女性患者のケアや処置の交代を依頼した際、「なぜ交代する必要があるのか」と問われることがあり困る	2.02
09. 女性看護師に、女性患者のケアや処置を交代してもらえないことがあり困る	1.92

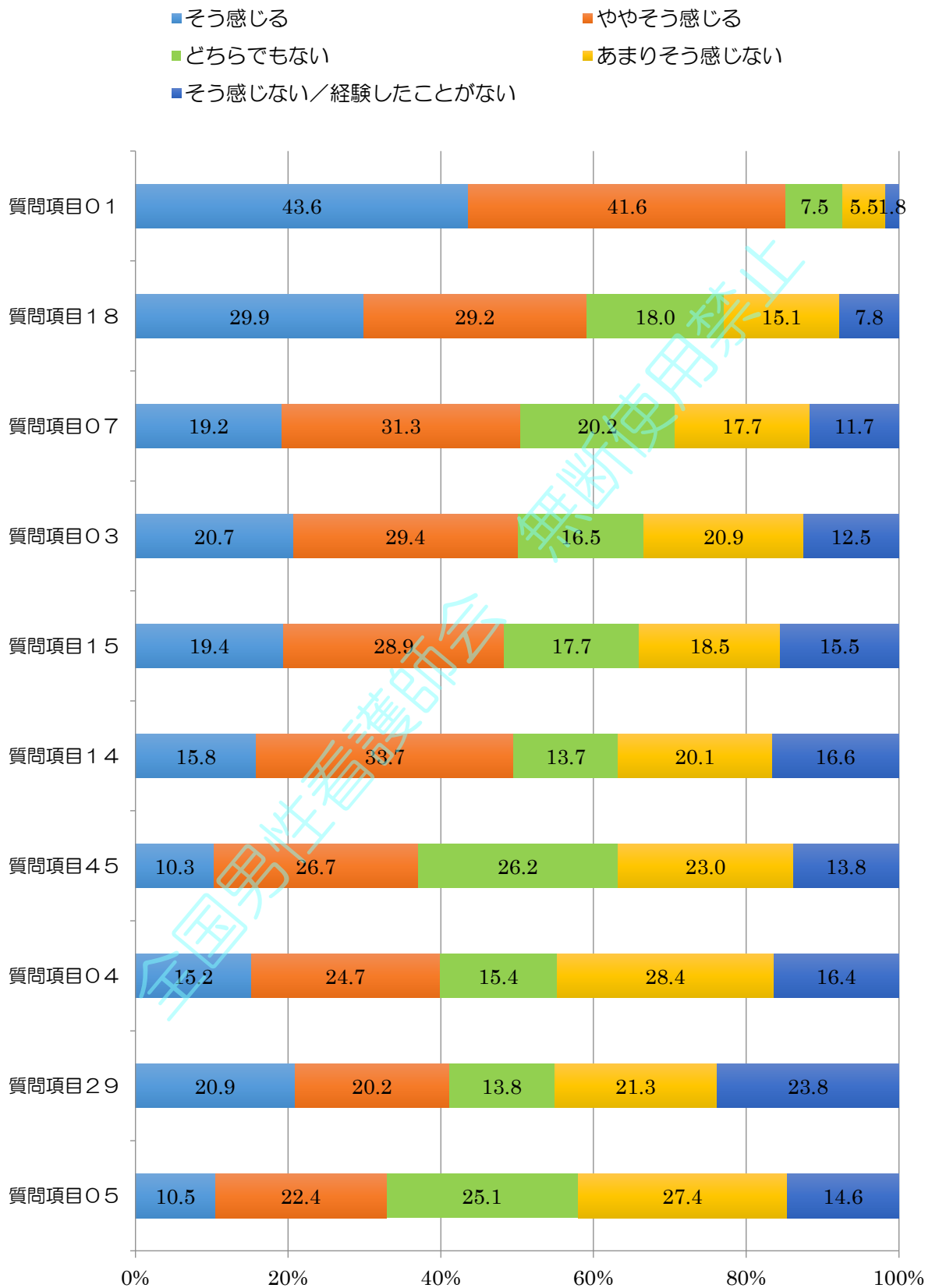
\* 平均値は、小数点第3位を四捨五入した値である。

質問項目：「01. 女性患者に羞恥心を伴うケアや処置を行う際、患者が不快な気持ちになるのではと、気がかりである」「07. 訪室時、女性患者の更衣や授乳場面といった身体露出を伴う場面に遭遇した際、対応に困る」「14. 女性看護師に、女性患者のケアや処置の交代を依頼することに申し訳なさを感じる」や「18. 看護師の給料体系で生計を立てていけるか不安を感じる」「03. 体力的にこの先も看護師を続けていけるか不安を感じる」「15. 男性看護師として今後どのような道に進めばよいか悩む」において、平均値が3.0以上であった。男性看護師は、女性患者に羞恥心を伴うケアや処置に関する事、自己の将来やキャリアに関する事に困難感が強い傾向が示唆された。

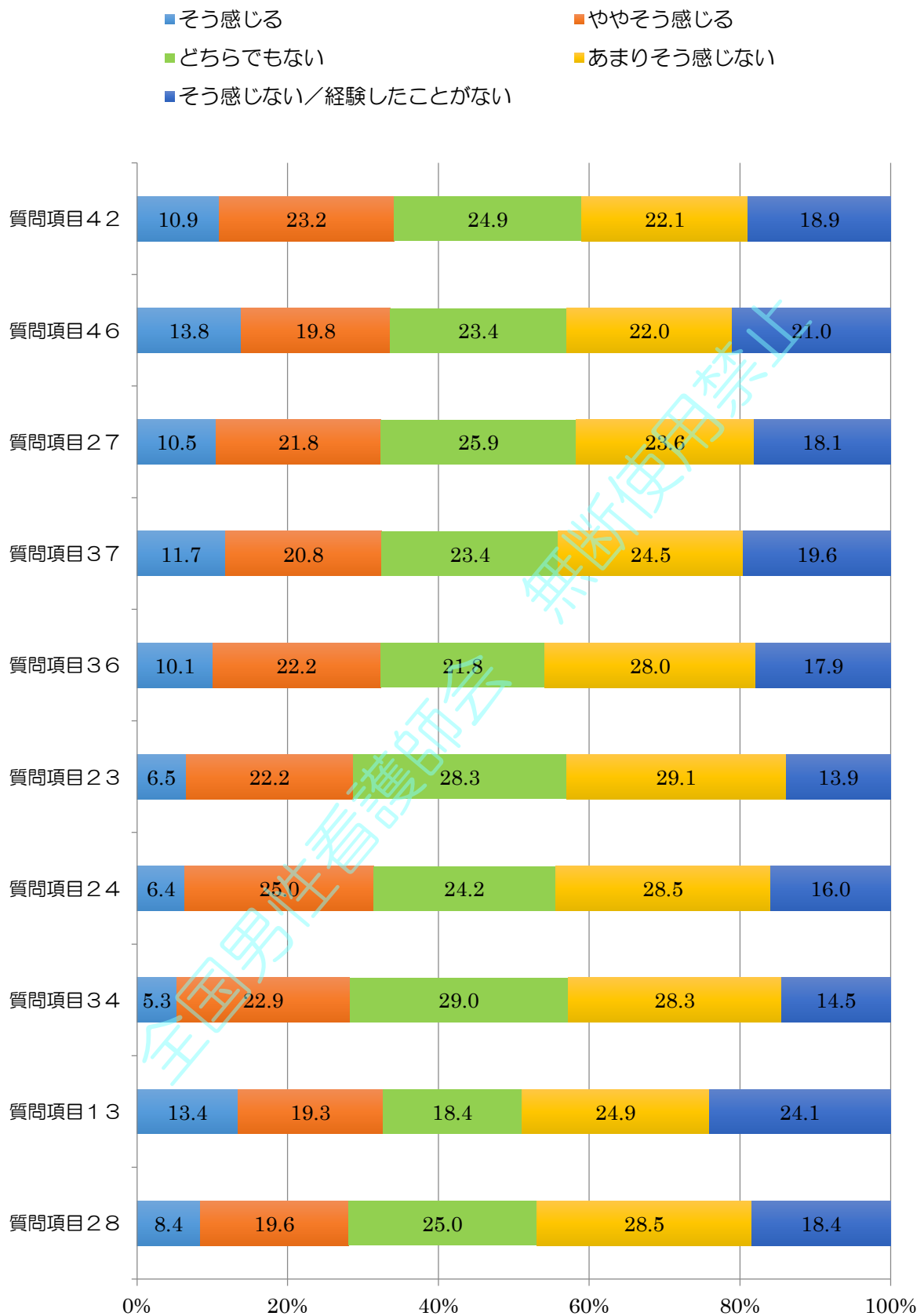
しかし、女性患者の羞恥心を伴うケアや処置に関する質問項目「38. 女性看護師に女性患者のケアや処置の交代を依頼した際、「なぜ交代する必要があるのか」と問われることがあり困る」「09. 女性看護師に、女性患者のケアや処置を交代してもらえないことがあり困る」は、平均値が低値であった。つまり、男性看護師が女性患者のケアを実施することと生じる困難感やケアの交代については、女性看護師の理解が得られており、男性看護師と女性看護師との連携が図られていると考える。



#### IV. 男性看護師の困難感-内訳



\* 平均値が高い質問項目の内訳を示す。平均値が1～10位を降順で示す。



\* 平均値が高い質問項目の内訳を示す。平均値が11～20位を降順で示す。

\* 質問項目は、前項を参考

## V. 男性看護師のレジリエンス

選択肢の「はい」：5点、「どちらかというとはい」：4点、「どちらでもない」：3点、「どちらかというといいえ」：2点、「いいえ」：1点とした、各質問項目の平均値を示す。

質問項目	平均値
03. 職場以外に愛情を注ぐ対象（家族・友人など）がいる	4.47
22. 幼いころ自分に愛情を注いでくれる人がいた	4.40
19. 困難なことも、看護のプロとして成長に必要だと思う	3.97
05. 看護の勉強をもっとしてみたいと思う	3.88
06. つらいことがあってもなんとか仕事になる	3.88
07. 家族以外にも悩みを話せる人がいる	3.84
18. 大きな責任を任されたら頑張ろうと思う	3.74
14. 嫌いな上司・同僚とも、「仕事」とわり切って付き合っていける	3.73
02. 職場に新しい上司・同僚が入ってきてもうまくやっていける	3.70
20. さまざまなタイプの上司・同僚とそれなりに付き合える	3.67
17. 「自分が今日あるのはこの人のおかげ」といえる人がいる	3.65
04. 臨終時や急変時にも自分を落ち着かせることができる	3.54
01. 私には看護職としての目標がある	3.48
13. 看護職のいろいろな業務に挑戦してみたい	3.38
16. 看護の仕事への興味や患者さんへの関心が強い方だ	3.38
11. 私は看護のプロとして日々努力している	3.36

質問項目	平均値
15. 新しい業務や珍しい仕事が好きだ	3.21
12. わがままを聞いてもらえる人がいない	3.13
09. 看護職として私の将来には希望がある	3.07
10. 気の合わない上司・同僚に合わせていくことは苦手だ	2.57
21. 新しい仕事を覚えるのは簡単だ	2.49
08. 慣れない仕事をするのは好きではない	2.42

\* 平均値は、小数点第3位を四捨五入した値である。

\* 質問項目、8. 10. 12は逆転項目である。

質問項目：「03. 職場以外に愛情を注ぐ対象（家族・友人など）がいる」と「22. 幼いころ自分に愛情を注いでくれる人がいた」の2項目において平均値が4.0点以上であった。

また、逆転項目である、「10. 気の合わない上司・同僚に合わせていくことは苦手だ」、「08. 慣れない仕事をするのは好きではない」は2点代であった。そして、「21. 新しい仕事を覚えるのは簡単だ」は、低値を示し、新しい仕事を覚えることを簡単だとは、さほど認識していないことが示唆された。

一方、「19. 困難なことも、看護のプロとして成長に必要だと思う」や「05. 看護の勉強をもっとしてみたいと思う」の平均点が比較的高値であったことから、困難に立ち向かおうとする意識や自己研鑽の認識が高いのではないかと考える。

## VI. 男性看護師の職場ストレス

選択肢の「いつもある」:5点、以下、4点、3点、2点、「ない」:1点とした、各質問項目の平均値を示す。

質問項目	平均値
03. 忙しすぎて十分な看護ができないと感じる	3.91
08. 自分の職場に十分な人手がない	3.85
18. 患者の生命をあずかることに重圧感を感じる	3.79
14. 患者へのケアに関して、ミスしないかと不安を感じる	3.71
12. ハードな勤務が続く	3.69
13. 患者が苦しんでいるのをみる	3.56
22. 病棟に理解しあえないナースがいる	3.39
11. 仕事に関する知識不足により自信をなくす	3.34
06. 不安の訴えが多い患者をケアする	3.34
21. 業務上のミスにより自信をなくす	3.27
17. 患者の気持ちを十分に支えられていないと感じる	3.22
09. 悲観的な訴えを繰り返す患者をケアする	3.11
01. 看護の無力感を感じる	2.98
05. ケアの手ごたえが感じられないと感じる	2.94
19. ナースの間で患者のケアについて意見が食い違う	2.91
10. ケアによる効果が、患者に見られないと感じる	2.88

質問項目	平均値
07. 上司と考え方が食い違う	2.86
02. 自分の気持ちを上司から理解してもらえないと感じる	2.85
16. 特殊な器具の操作や機能がはっきりしない	2.85
20. 医療者不信のある患者をケアする	2.78
04. 患者と信頼関係が築けないと感じる	2.69
15. スタッフの協力が得られず、看護の継続がなかなかできない	2.69

\* 平均値は、小数点第3位を四捨五入した値である。

質問項目：「03. 忙しすぎて十分な看護ができないと感じる」「08. 自分の職場に十分な人手がない」「12. ハードな勤務が続く」において、平均値が比較的高値であり、人員不足が職場ストレスの大きな要因の一つであることが示唆された。

また、「18. 患者の生命をあずかることに重圧を感じる」や「14. 患者へのケアに関して、ミスしないかと不安を感じる」の平均値も次いで高値を示していたことから、生命を守るとの看護師としての責任感と、その重圧が職場ストレスの影響要因であることが示唆された。